

2022年度下期JP-MIRAI会員活動報告

「高齢化対策を担う人材育成と介護予防事業の支援」

社会福祉法人やすらぎ福祉会
平井 尚隆



「ここで過ごせてよかった」と思える豊かな人生のために、
地域福祉の拠点を目指します。

岡山市の中心地にあり、交通の便も良い



事業 高齢者福祉施設 64ベッド
デイサービス
訪問介護
障害者支援
居宅介護支援
国際的な活動

2002年事業開始
事業規模 職員数 65名(うち外国人11名)

1. きっかけは国際化したい

2014年 EPAでインドネシアから外国人介護人材を受け入れ

2015年 JICA草の根技術協力支援事業委託

2. 多文化共生って何

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」

3. 地域での受け入れ

ご近所の方々から「笑顔で挨拶してくれて気持ち良いわ」

4. 認め合う気持ち

イスラム教の女性が宗教上の理由で髪の毛を隠すために着用するヒジャブ(ジルバブ)、1日に複数回行うお祈りなど、異国の習慣を受け入れること

5. 利用者家族と地域の理解

「外国人が介護できるの」「イスラム国のテロリストじゃないの」

6. 現場での工夫

スマートフォンでの翻訳アプリ、記録の入力のための定型文の作成

7. 日本人職員の変化

高齢者に対して常に笑顔で、たどたどしいけど丁寧な言葉遣いで対応している姿を日本人職員たちが見て、ハッと気づかされる



【現在の外国人雇用状況】

技能実習生2名

特定技能7名

在留資格介護2名(介護福祉士取得)

※給与等の待遇はすべて日本人と同じ



「泉寿の里に来てくれて、ありがとう」



選ばれない国日本に～

受け入れる日本側の制度

外国人に対する処遇

円安

都市部と地方の賃金格差





選ばれる国日本へ～

日本の経験や技術を相手国に ⇒ **恩返し**

JICA草の根技術協力支援事業 2015年「高齢化対策としての介護予防事業の支援」
2022年「こけないからだ体操を通じた介護予防事業の支援」

ベトナム社会主義共和国 対象地域ハノイ、ハイフォン、タイビン省、タインホア省、フート省の236コミュニティ、3100名の高齢者に介護予防の活動を行っている。

恩返しのために日本・途上国人材還流

活動

岡山県内(主に津山市内)で就労しているベトナム人介護事業従事者との面談を行う。

日本で就労をしながら介護予防についての知識と経験を学びたいベトナム人候補生向けの説明会を開催する。

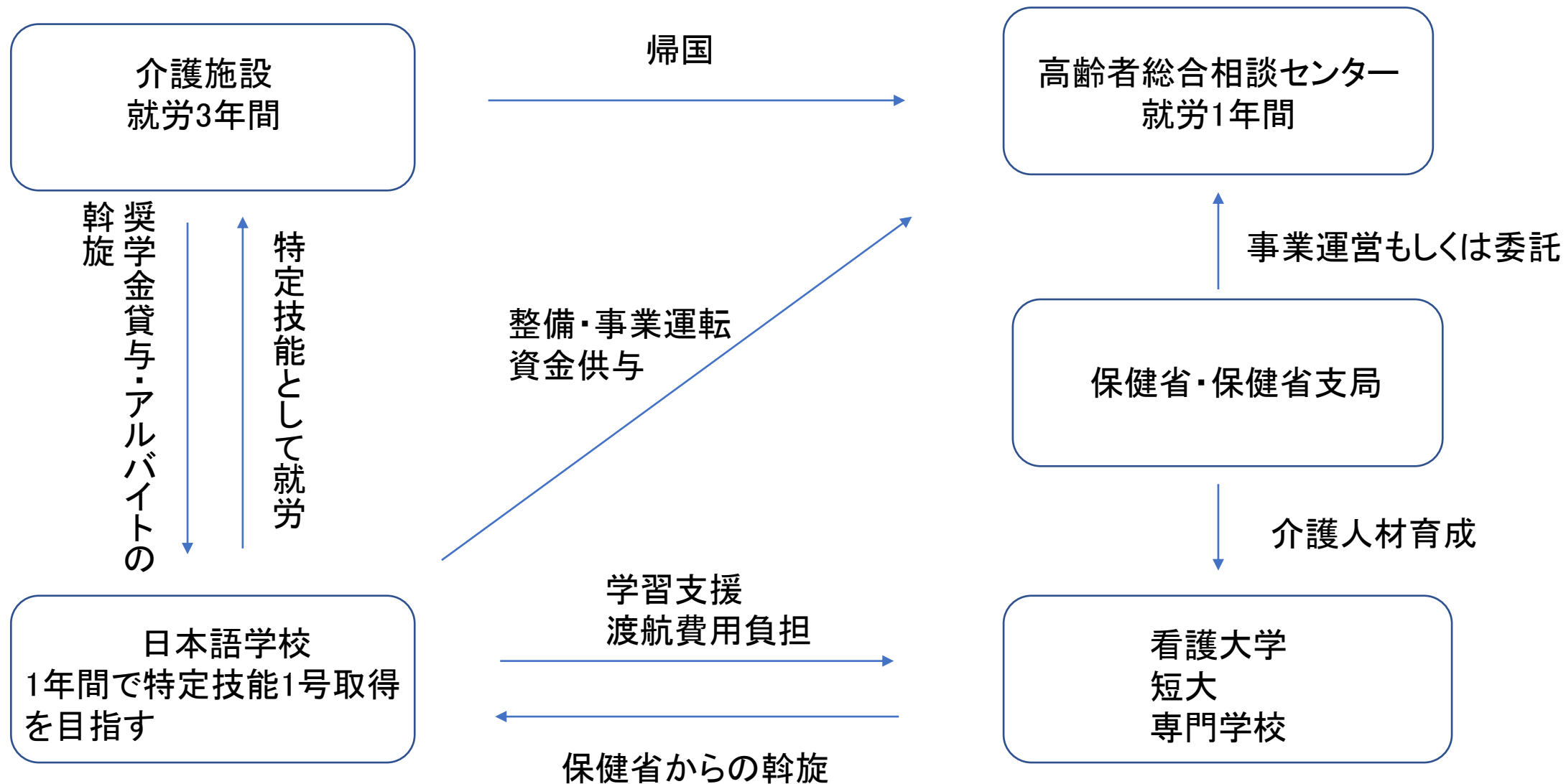
総合支援事業の運営について日本側のアドバイスを行う。

自立支援型のデイサービスを含めた高齢者の総合支援センターの設置について協議する。

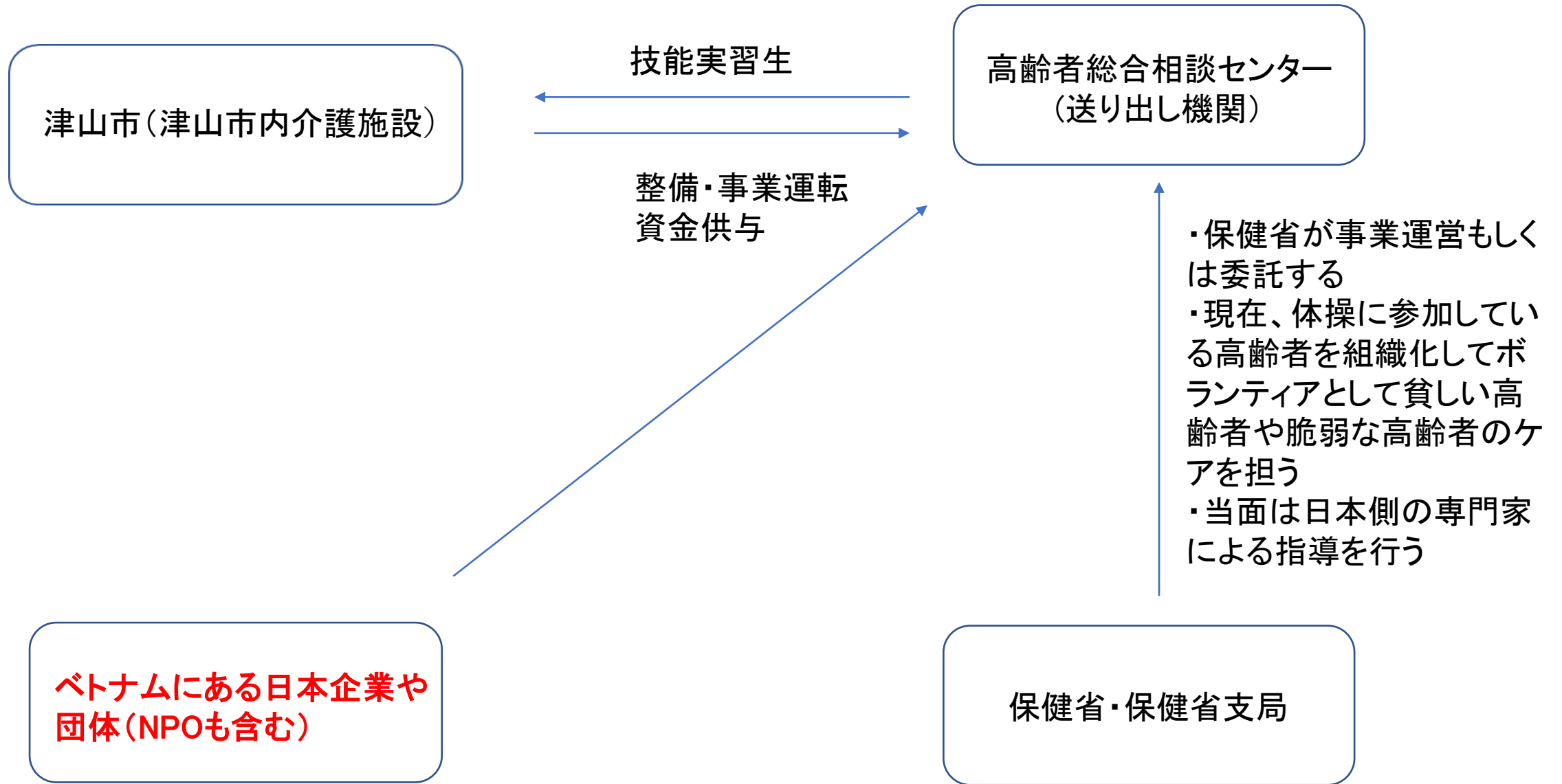


日本での学習や就労を、帰国して自国の高齢化対策に役立てる

介護人材還流のスキームづくり(当初の予定していた計画)



介護人材還流のスキームづくり(新しい計画)



新しい計画の課題

技能実習制度が廃止に向かっている

→ 政府の方針により、技能実習制度が廃止の方向に向かっているため、都市部に外国人材が集中し、人材不足で困っている地方がさらに厳しい状況に陥る。

高齢者施設の介護人材不足の終焉

→ 2035年から2040年に高齢者人口がピークになると言われているが、現状では地域によって入所する高齢者の減少により、介護施設の事業が縮小傾向となっている。



介護分野では、外国人の雇用を必要としない時代が近いのではと考えられる。

活動報告まとめ

日本の介護現場で働きたいという学生の減少と日本の高齢者施設の人材確保の状況からして、当初の描いていた計画とは異なる「ベトナムと日本の両国が互いに地方の行政レベルで進めていく」ことができれば、お互いの地方創生へと繋がっていくと考える。

また日本側も外国人の就労が期間限定になりつつある介護分野に限定せず、農業、製造業など違う分野でも人材が還流できるようになれば、より継続できる還流のモデルを目指すことができるのではないかと。

JICAやJP-MIRAIのような日本の地方と進めていくことができる団体の協力を得たいと考える。



ご清聴ありがとうございました